



重野 邦正

横河電機株式会社 執行役員

中東・アフリカ統括代表 兼

Yokogawa Middle East & Africa 社長

## 中東協力センター設立 50 周年に寄せて

この度は、中東協力センターの創立 50 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

中東協力センターには、2004年6月に当社が賛助会員となって以来約 20 年もの間、様々な事業活動を通してご支援をいただけてまいりました。二国間経済関係強化事業である「日本・サウジアラビアビジネスカウンシル」や「日本・アブダビ経済協議会」においては、サウジアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE) における現地化への貢献を発表する機会をいただき、各国政府の皆様へ YOKOGAWA の取り組みについてご理解を深めていただくことができました。また、中東協力センター主催のワークショップでも幾度かの登壇の機会をいただき、サウジアラムコ社、SABIC 社、ADNOC 社といったサウジアラビアおよび UAE の重要なお客様との関係を強化することができました。官民の専門的知見と情報の共有促進事業である「中東協力現地会議」や投資促進事業である「日・サウジ・ビジョン 2030 ビジネスフォーラム」や「サウジ官民水ビジネスミッション」などの活動においても、中東協力センターの多大なご協力とご助言をいただけてまいりました。中東地域における当社のビジネスに、長年にわたり大きなご支援をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

直近の中東協力センターからご支援頂いた投資促進事業をいくつかご紹介いたしますと、2021 年度はサイバーセキュリティリサーチ&オペレーションセンター機能の拡充に伴う技術指導を実施いたしました。サイバー攻撃は中東地域のお客様にとって最も大きな懸念の 1 つであり、ビジョン 2030 の実現化プログラムのうち IR4.0 においてもサイバーセキュリティが最大投資領域と位置付けられておりますが、この技術指導によりサウジアラビア国内プラントへのセキュリティリスクを低減し、プラントの安定稼働およびビジョン 2030 への貢献、加えてそれら実現のためのサウジ人エンジニアの育成を行うことができました。また、2022 年度はサウジアラビアにおける脱石油依存経済の構造改革に積極的な投資がされていることを受け、サウジアラビア国内における新たなデジタル産業の開拓ならびに成長を推進すべく、弊社はサウジアラムコ社と覚書 (MOU) を締結し、サウジアラビア国内での半導体製造技術の開発、確立に向けた活動を進めることができました。これらは中東協力センターのご支援なくしては成功裏に完了することはできないものであり深く感謝いたしております。

このほか、2019 年の中東協力現地会議では、「ビッグデータ解析 (機械学習) によるプラント故障の予兆診断」についての発表、また 2020 年には「サウジアラビアに進出した日本企業のサクセスストーリー」をテーマとして若手起業家向けワークショップの開催、2023 年にはサウジアラビア水環境協議会 (SAWEA) の水技術視察ミッションにおいて高効率エネルギーシステムに関する講演をしておりますが、いずれにおいても中東協力センターには多大なご尽力をいただきました。

ここで簡単にサウジアラビアと UAE における YOKOGAWA の取り組みを簡単にご紹介させていただきます。サウジアラビアでは 2006 年に日系企業初となる 100%サウジ外資会社の横河サウジアラビアを設立し、2008 年にサウジアラビア東部州アルコバールのダーランテクノバレー (DTV) にエンジニアリングセンターを開設しました。2010 年に当時サウジアラビア政府が推進するサウジ人女性の現地スタッフの採用を積極的に推進し、2021 年にキングサルマンエナジーパーク (SPARK) に日系企業初となる Digital HUB としてのマニュファクチャリングセンターを開所し、2023 年にサウジ投資省が推進する地域統括会社 (RHQ) を立ち上げ、サウジアラビアの現地ビジネスの拡大に努めてまいりました。

一方 UAE においても 2010 年にアブダビにエンジニアリングセンターを立ち上げ、2021 年に現地法人横河 UAE Industry をアブダビに設立し、UAE の現地ビジネスの拡大を図ってまいりました。

さて昨今のグローバル情勢に目を向けてみますと、地政学的な問題が表面化しエネルギーの安定供給に向けて不安定要素が山積しております。これまで中東協力センターはエネルギー資源の安全保障に重点を置いた活動から、人材育成や文化交流を含む活動へと幅を広げて発展してこられました。今後はカーボンニュートラルへの移行における新たなエネルギーや人材確保に対する不確実性などの課題が想定されるなかで、中東協力センターが更に重要な役割を果たし、次の 50 年に向けてますます発展されることを確信しております。

未筆ながら、中東協力センターの今後一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

